

第 14 回 RIEC スピントロニクス国際ワークショップ 14th RIEC International Workshop on Spintronics

開催日：平成28年11月17日（木曜日）～19日（土曜日）（3日間）

開催場所：東北大学電気通信研究所 ナノ・スピン実験施設

参加人数：100名（うち外国人参加者人数26人）

本ワークショップは2005年に第1回が開催されて以来、ほぼ年1回のペースで回を重ね、今回で14回目の開催となった。今回は、我が国をはじめとして、アメリカ、フランス、スウェーデン、オランダ、チェコ、韓国、スイス、ポーランドからの招待講演者による22件の招待講演に加え、25件のポスター発表がなされた。また今回は日本学術振興会「研究拠点形成事業 (Core-to-Core Program)」のワークショップと連続での開催とした。RIEC スピントロニクス国際ワークショップの合計参加者は100名を数え、スピントロニクス分野における最新のトピックスに関して活発な議論がなされた。

今回のワークショップでは、初日は磁気トンネル接合におけるスピントルク磁化反転、二日目はスピン軌道トルク磁化反転、三日目は強磁性半導体、磁性の電界効果、というように最近のスピントロニクス研究の中で進展が著しいトピックスに焦点を当て、最先端の研究を行っている世界各国の研究者を招待講演者として招いた。いずれのトピックも聴衆との間で活発な議論がなされ、今後のスピントロニクス研究の更なる発展の可能性を感じることができた。ポスター発表では本学の学生も発表を行い、世界の一流研究者に対して自分の研究内容を伝え議論することで、今後の研究を進めていくための良い示唆と大きな刺激が得られたものと思う。



ナノ・スピン実験施設 カンファレンスルームにて